

令和元年度徳島県西部地域政策総合会議計画推進評価部会 会議概要

1 開催日時

令和元年11月29日(金) 午後1時15分から午後3時00分まで

2 開催場所

西部総合県民局 美馬庁舎2階 大会議室

3 出席者

(1) 委員 6名出席

石田部会長, 篠原副部会長, 由村委員
金村委員, 西村委員, 近藤委員

(2) 県関係

秋川局長, 大塚副局長, 原田地域創生部長, 山川観光振興部長
東條保健福祉環境部長, 國安農林水産部長, 折目県土整備部長,
小笠政策調査幹 他

4 会議次第

(1) 開会

(2) 議事

① 「徳島県西部圏域振興計画(第3期)」の平成27年度から平成30年度の
評価について

② 質疑応答

(3) 閉会

5 配付資料

資料1 徳島県西部地域政策総合会議計画推進評価部会委員名簿

資料2 令和元年度徳島県西部地域政策総合会議計画推進評価部会 配席図

資料3 徳島県西部地域政策総合会議計画推進評価部会設置要領

資料4 徳島県西部地域政策総合会議計画推進評価部会における「徳島県西部圏
域振興計画(第3期)」の評価について

資料5 「徳島県西部圏域振興計画(第3期)」の主な取組結果(平成27年度～
平成30年度)について

資料6 「徳島県西部圏域振興計画(第3期)」評価シート

6 議事概要

(大塚副局長)

ただ今から, 令和元年度徳島県西部地域政策総合会議計画推進評価部会を開会する。

(秋川局長)

委員の皆様には第3期「西部圏域振興計画」の進捗状況の点検評価に対する検討をしてい
ただくのがこの評価部会の目的である。

第3期の総決算として4年間を振り返り評価をしていただければと考えている。

本日は皆様の意見を承り, さらに次の期に向けてしっかりと地元の方々に実感してい
ただけるよう施策に反映していきたい。

(大塚副局長)

本日, 欠席している大島委員は, 美馬市秘書課主幹であり, 美馬市教育総務課, 藤本委

員の退任に伴い、新たにご就任いただいているので、報告する。

計画推進評価部会は、「徳島県西部地域政策総合会議計画推進評価部会設置要領」第5条第2項に基づき、委員及び専門委員の総数の半数以上の出席がなければ開くことができないと規定されているが、本日は7名中6名の出席により、会議が有効に成立していることを報告する。

ここからの議事進行については、石田部会長にお願いする。

(石田部会長)

それでは、議事に入る。

計画推進評価部会の評価手法について、事務局から説明をお願いする。

(小笠調査幹)

資料4により説明

(石田部会長)

ただいま事務局から説明があったとおり、

○ 評価単位は、「重点項目」の下にある「中項目」

○ 評価項目は、「平成27年度から平成30年度の取組及び進捗状況」

○ 評価は、「A、B、C」の3段階

16の中項目を重点項目ごとに区切って、前半は重点項目の1～3、後半は重点項目の4～5と評価を進めていきたい。

まずは、事務局から取組状況を説明いただき、委員の皆様から質疑をお伺いする。

その後、数値目標達成度や平成27年度から平成30年度の成果および取組に基づき、合議により評価を行うことになる。

会議中、計画の推進に参考となる意見、提言があれば自由に発言いただきたい。

会議でいただいた意見は、西部地域政策総合会議へ評価部会の意見として、報告するとともに、新たな計画である「徳島県西部圏域振興計画(第4期)」に反映していただき、県民局の今後の事業実施の参考としていただきたい。

第3期の重点項目の1～3の主な取組結果について、事務局から説明をお願いする。

(小笠調査幹)

資料5及び6により説明

(石田部会長)

まず、「重点項目1 魅力ある観光・交流の拡大」について、議論したい。

中項目「(1)地域の魅力づくりの推進」について、評価および評価理由や関連して御意見など順番にお伺いして、進めて行きたい。

(篠原副部会長)

ほとんどが◎で目標を達成しているなので、よく取り組んでいられると思い、Aを付けさせていただきます。

(石田部会長)

中項目「(1)地域の魅力づくりの推進」には事業として16、そのうち1つが○ということで、Aという意見。

A評価でよいか。

(各委員)

A評価です承

(由村委員)

評価はAで賛成だが、2点だけ、今後の目標設定に活用いただければと思い、提言させていただく。

最初に、施策番号1で、「世界に適用する競争力の高い観光地域」と書いているので、他の13の観光圏の先進的な地域とのバランス、ベンチマーク的なところを設けて、比較・公表された方が良いのではないかと。成果及び取組のところで、自己完結型の取組が多く、ジャッジするところが多いと思う。先進地域のところをベンチマークとして、比較の達成度という形にされた方が、「世界に通用する」というような書き方に対して、妥当性があると思う。

2つ目は、来訪者満足度というところ、顧客満足度調査というのは、今となっては古い、顧客ロイヤルティにあまり寄与しないというのが、2005年くらいから世界の常識になっている。

では何を使うかということで、NPS（ネットプロモータスコア）という話がある。詳細な説明は省略するが、NPSにより、顧客ロイヤルティを計られるのをお勧めする。

(西村委員)

同じことで、お聞きしたい。

細かいところまで、目を掛けていただいていると思うが、来訪者満足度における大変満足の割合が20.8%でもう少し上げなければいけないのではないかと。これがリピーター率に繋がってくるのではないかと。

NPSで調べてますかという話だったと思うが、満足と答えてくれたときのアンケートはどのような意見だったのか。

アンケートの内容を言っていただけないか。

(石田部会長)

説明をお願いします。

(山川部長)

来訪者満足度調査について質問いただいた。

平成30年度では1,117件の有効回答数で、聞き取りに行った「うだつの町並み」や「貞光ゆうゆう館」「かずら橋夢舞台」などで500人に聞いて、後は宿泊施設で600人に聞き取った調査結果である。

7段階評価の最上位となる「大変満足」が20.8%であった、「満足」を入れると、「満足」が39.4%、「やや満足」が24.7%なので、ほぼ満足はしていただいていると考えている。

今、もっと上げていってという意見をいただき、4期計画では25%にしていこうと考えている。

(秋川局長)

この満足度調査については、由村委員から意見いただいた他のトップグループの観光圏と同じアンケート用紙である。非常に項目数が多く、「大変満足」と書きにくい状態のアンケートであり、観光圏の中でトップクラスの評価である。

我々としては、トップ集団についていきながらトップになりたいと、さらなる指標の向上を4期の目標にしたところである。

(石田部会長)

他に意見はあるか。

(各委員)
意見なし

(石田部会長)
中項目「(2) 外国人誘客の推進」についての評価をお伺いする。

(西村委員)
私が住んでいるところも祖谷に近いので外国人が多いところである。
私どもの運営しているところにも平日でも外国人が来てくれるのをちらちら見る。私ども従業員の中で、英語をしゃべれる方を雇用し、香港や台湾も多いがほぼ英語で対応できる。外国人が来てくれるので、魅力アップをしていかなければと力を入れている。
官民一緒に一生懸命やっているの、私はAを付けている。

(石田部会長)
Aという意見と評価だったが、どうか。

(各委員)
A評価です承

(石田部会長)
中項目「(3) 受入環境の整備」についての評価をお伺いする。

(由村委員)
数値目標の達成率も高いのでAがふさわしいと思う。

(石田部会長)
Aという意見だが、どうか。

(各委員)
A評価です承

(石田部会長)
続いて重点項目の2「豊かな地域環境の創造」に移る。
中項目「(1) 自然と共生する地域づくり」について、評価をお伺いする。

(近藤委員)
◎がほとんど、○が2つなので、A。

(石田部会長)
数値目標の達成度からするとA評価でいいのではという意見であった。
関連して意見はないか。

(各委員)
A評価です承

(石田部会長)
続いて中項目「(2) 環境に配慮した行動の推進」について評価をお伺いする。

(金村委員)

全て◎で素晴らしい取組だと思う。

一つ質問、「環境首都とくしま・未来創造憲章」の啓発の推進で◎が付いているが、どういった判断で◎か説明いただけたらと思う。

(坂本副部長)

リーフレットを活用し、「夏休みエコサイエンス教室」であったり、「ジュニア・ネイチャーリーダー養成講座」において、子ども達に啓発活動を実施しているということで、◎としている。

(金村委員)

一つ提言であるが、いい計画とは数値化や定量化できるものがいい計画と言われており、推進とか啓発とか口当たりはいいが、判断するための数値化が必要だと思っている。

どんな事柄に関しても数値化できると考えている、ここを具体的に数値に落とされて、数字として判断していくと、より精度が高まると考えている。

(石田部会長)

検討をお願いします。

例えば「啓発」とあるのを、「啓発活動」とするだけで数字になったり、実際ここを取組として書かれていることが、全て回数にカウントされるものである。

元々の目標設定は推進であるが、ここで評価する時には数値で評価することになる。

どうしようもないものは数値でない評価になると思うが、評価を数値とするのであれば、初めから数値を入れていただいた方が分かりやすい、そういう意見と思う。

併せて少し、◎という判断だが、気になるのは主に子ども達に向けてと説明があったが、憲章は子ども達に向けてPRすれば十分であると、この啓発対象は子ども達だけであるという理解でよいか。

(坂本副部長)

子ども向けに作っている部分が多くあり、次代を担っていただく子ども達に重点的に啓発しているが、住民、県民全般に対して憲章を、普及させていくということである。

取組の事業としては、子ども達向けが中心になっているが、実際は、保護者がついてきており、大人も一緒にという形になっている。

(石田部会長)

確認だが、憲章は子どもだけではないということによいか。

(坂本副部長)

はい。

(石田部会長)

評価は、どうか。

(金村委員)

評価はAで。

(各委員)

A評価で了承

(石田部会長)

続きまして中項目の「(3)地域の環境資源の活用推進」について、項目としては5つあり、全てが数値目標を達成となっている。

私が案を提案する番なので、Aでどうか。

(各委員)

A評価で了承

(石田部会長)

続いて、「重点項目3 安全・安心な地域社会の形成」

中項目「(1)広域防災体制の整備」についての評価をお伺いする。

(篠原副部会長)

評価としては、A。

一点質問として、45番は○で30年度の目標値が達成できなかったが、一部達成が見込めなかったと書いているのは、どういう取組になるのか。

具体的に説明をお願いします。

(鴻上企画幹)

2市2町の防災あるいは減災対策のプラン推進を図ってきたが、昨年度については一部、豪雨災害あるいは大雨といった気象要因あるいは各種の社会的要因によって達成できなかったものが一部あったため、一部達成できなかったとしている。

(石田部会長)

私からも質問、成果及び取組で一部達成が見込めなかったとあるが、これは「にし阿波防災行動計画」、防災のための計画が、豪雨災害、まさにターゲットとなるものと思うが、この豪雨災害のために計画が達成できなかったというのは、どういう状況なのか。

風邪を引かない予防をしたけど、風邪のために予防ができなかったと言っているのと同じ。イメージが分かりにくいので具体的に教えてほしいのと、各種社会的要因とは幅広い表現であり、何なのか教えていただきたい。

(鴻上企画幹)

にし阿波防災行動計画については、防災に関するハード面ソフト面含めた、かなり多くの項目を細々と決めている。

これは県が定めた「とくしまゼロ作戦地震対策行動計画」や、「県土強靱化地域計画」、これらを参考にして、それぞれの分野でやることを決めている。

例えば、各市町ごとに行っている防災出前講座や各種訓練であったり、防災に関わる部分で、特に去年の豪雨で三好市周辺はかなり被害を受けたので、出前講座どころではない、実際の救援の方が大事だということもあり、計画されていたものが出来なかったことから、一部出来なかったと表現している。

(石田部会長)

意味が理解できてきた。

行動計画の進捗状況(達成・順調)に、先ほどと比べると訳ではないが、推進ではなく、数値が入っている訳で進捗状況として86.9%があり、回数をカウントしているところがある。

先ほどおっしゃっていただいたのは、出前講座なり防災の取組があって、達成の回数が届いていないという意味でよいか。

それで実際に災害があったので、訓練の回数が減ってしまったという意味でよいか。

(鴻上企画幹)
そのとおりである。

(篠原副部長)
「(3) 地域を守る活動の推進」ともリンクするということでよいか。
59番や60番に訓練の回数が入っており、60番の自主防災組織率、61番などと関連している訳か。
わかった。

(石田部長)
今後よろしければ、書くスペースが空いているので、分かりやすく書いていただけるとありがたい。
評価としてはAということだが、どうか。

(各委員)
A評価で了承

(石田部長)
続いて、中項目「(2) 災害に備えた基盤整備」についての評価をお伺いする。

(西村委員)
ほぼ◎のところなので、私としてはAで判定している。
一つ教えて欲しいのは、50番の△、臨時ヘリポートの箇所数が56から67まで増えたとあるが、場所を教えていただきたい。

(原田部長)
西部圏域は、災害時において、集落孤立が発生する確率が非常に高いので、圏域の市町と連携して67箇所まで整備している。
臨時ヘリポートというのは、自衛隊等が保有するヘリコプターの利用を念頭に、救命・救助、支援物資の補給等の業務に活用するために離発着可能な条件で整備をしている。
委員の地元で申し上げますと、山城地区には三好市山城総合グラウンド、地域多目的施設グラウンド(大野小学校の跡地)、大川持河川敷駐車場、山城中学校グラウンドの4箇所である。
そのうち、三好市の山城中学校グラウンドについては、自衛隊のヘリに加え、救急・救助・消火その他の災害対応などの消防防災業務を担う消防防災ヘリも離発着可能となっている。
また、消防機関からの出動要請に基づき、救急現場に駆けつけるドクターヘリについても離発着可能となっている。

(西村委員)
山城4箇所以外の63箇所はだいたいどのあたりにあるのか。

(鴻上企画幹)
図にしたものを後ほどお持ちする。

(石田部長)
他に意見はどうか。
評価については、ほとんどAとおっしゃっていたが、我々の基準としては、数値目標達成状況は中項目ごとであり、達成状況は個別に◎○△で表し、そして中項目ごとに個数で

点数を出したものが☆の達成状況となる。

ここで本項目をみると、◎は多いが、割合からみれば、☆☆となっている。これを確認したうえで、評価はAということによいか。

他の方どうか。

(由村委員)

基準にのっとり私はB判定である。

(近藤委員)

△の項目があり、事情を聞いているので仕方がないのかなと思い、Aを付けている。

(金村委員)

私はB。

(篠原副部長)

私はB。

(石田部長)

意見が割れる形になったが、皆で合意したい。

私も意思表示するとBかなと思う。

理由はいろいろあるかもしれないが、達成率からするとBがふさわしいと思う。

合意をしたいわけだが、Bでどうか。

やっぱりAなのか。

(近藤委員)

私はBでかまわない。

(西村委員)

委員の多くの方がBということなので、私もBでもかまわない。

(石田部長)

B評価ということによいか。

(各委員)

B評価で了承

(石田部長)

続いて中項目「(3) 地域を守る活動の推進」についての評価をお伺いする。

(由村委員)

結論から言えばBかなと、数値から定量的にみればCであるが、自然災害の年だということで手が回らなかった、そこに論理的な説明ができると思うので、数値的にはCであるがBで構わないと思う。

(石田部長)

そのまま機械的にいけばCであろうが、理由と状況を考えるとBでいいのではないかということだが、どうか。

実際に災害があったので訓練の回数が減った結果、評価が下がるよりは、下げなくてもよいのではないかということである。

Bでよいか。

(各委員)

B評価で了承

(篠原副部長)

この項目でいつも質問しているのが、自主防災組織の組織率について、問題があって達成は無理であると回答をいただいている。

であれば、別の評価の方法を考えた方がよいのではないか。

目標にしているのに達成にならない。いつもならないのはおかしいと思い提言させていただく。

(原田部長)

理由としては、自主防災の母体である地域の自治会や根ざしている団体等が、一定程度過疎化高齢化が進んでおり、母体となる地域の団体が限界に達している。頭打ちになっているため、これ以上は難しいのかなと判断をしている。

新しい第4期の計画では、この項目について削除させていただいており、代わりに中核となる防災士の養成が各市町で進んでいる状況があるため、今後はより実質的な防災を担っていただく防災士の活動に重きをおいて、地域の自主防災の力を上げていこうとしている。

(篠原副部長)

毎回、100%にならないのに、なぜ100%を目標にしているのかと思っていたので、無くなったのであれば、それはそれでいいと思う。

(石田部会長)

ここまでで重点項目3までの評価・議論が終わった。

残りの重点項目4と5に進むので、まずは事務局から主な取組結果について説明をお願いします。

(小笠調査幹)

資料5及び6により説明

(石田部会長)

「重点項目4 健やかに暮らせる地域づくり」、こちらには中項目が3つある。

中項目「(1) 子育てを支える地域づくり」についての評価をお伺いする。

(近藤委員)

◎の数を見て、評価Aにした。

68番の、年間の相談支援件数40件以上、平成30年度は61件ということで、最初の目標が、もう少し多くてもいいのではないか。

相談が多いから良いというものではないと思うが、美馬市、三好市も入れて40件では最初から低いのではと感じる。

(石田部会長)

相談支援の数え方については、相談があっただけで1なのか、何らかの支援というアクションを起こして1件なのか。支援をして解決で1件なのか。

取組には、「機会を活用し」とあるが、活用の仕方と関連させ、具体的な状況だったりを教えていただきたい。

(大木元所長)

相談支援については、不妊治療の申請時や不妊相談とか、その他、家庭訪問等で相談や支援を行った件数をカウントしている。

次回の4期の計画については、60件を目標としている。

(石田部会長)

評価としてはAでよいか。

(各委員)

A評価で了承

(石田部会長)

続いて中項目「(2) 高齢者・障がい者を支える地域力の向上」の評価についてお伺いする。

(金村委員)

この項目については、◎が10、○が2でA評価をさせていただいた。

質問として、○のところ78番、シルバー大学校の受講者数を目標として掲げられているが、この人数を達成するための、具体的なアクションプランはどういったことをされたのか、教えていただきたい。

(原副部長)

シルバー大学校・大学院については、定員が大学校70名、大学院15名で85名で運営されており、より多くの方に参加いただくため、最大限で90名を目標値に設定させていただいたものである。

実際の申し込みは89名で、1名目標に達していなかったという状況であったが、我々としては基準以上にやらせていただいたということである。

(金村委員)

ありがとうございます。

具体的にどういったことをしたのか、もしあれば、アクションプランとして記入されたら、より精度が高まると思う。

それと、到達点を年間90名に設定された場合、達成するためにどういった行動を起こすのか、何をやったのかをみていかないと、やって良かったのか悪かったのかという評価がしにくい。

効果があったのか無かったのかをみるためにも、プロセスにもしっかり焦点をあてて、みていくことで、結果の質が変わってくると思う。

計画を立てられる際に、よりプロセスを重視されたら、より精度が高まる計画になるのではないかと感じた。

(石田部会長)

他にどうか。

先ほど、丁寧な意見であったが、他の言い方をすると、もともと定員85を高め目標設定したから、足りなくていいや、そんな事じゃだめだと。

そういう事を丁寧に意見いただいたと思う。

高めとはいえ90名なら90名で、そこに向かってどういう具体的な取組をしたかということなので、意見ということで、今後に検討いただければと思う。

評価はAでよいか。

(各委員)

A評価で了承

(石田部会長)

中項目「(3) 健康な暮らしを支える保健・医療の充実」の評価について、項目として21あり、数値目標の達成状況からして、主要指標△が気になるが、全体として△は1つのみで、○が1、残りは◎なので、A評価でいいと思う。他の皆様はどうか。

(西村委員)

判定はAでいいと思う。

糖尿病のこと、野菜摂取に取り組まれているが、ここに、小児科病院を増やすことは目標に入らないのか。今、大変、小児科病院が少ないと思う。移住してきて、子どもを産んでください、増やしてくださいと言っても、小児科病院が少ないのと、大きな病院になると善通寺の国立病院に行かないといけない。

来期でもよいが、子どもの病院を増やしていただきたい。糖尿病しか入っていない。

(石田部会長)

入れるとしたら、どこの項目になるのかも含めての質問だと思う。

(秋川局長)

診療科目については、小児科という診療科目がなければ対応できないというハードルがある。西部総合県民局だけではできず、県庁全体、地域の医療機関も含めての取組となる。

主要な指標としては入れづらい。糖尿病については、パイが少ないので、100人の5人と、10人の3人で、県全体の比率を超えるところもある。

今回、我々、糖尿病の場合は診療科目が内科であるとか、今ある病院でカウントができるので、県と対比でなくて西部地域で改善していく、と4期は指標は変えている。

小児科については、気持ちは十分分かる。我々も地元に住んでもらう、若い方にUIJターンで帰ってきてもらうためには、子育てのサポートが必要だと分かっているの、いろんところで話はしているが、残念ながら、この西部の振興計画の指標としては入れづらいということになる。

ただ、地域外から来てもらう一つの魅力に繋がるので、頑張らなければならないと分かっており、様々なところでお話をさせていただいている。

(石田部会長)

行政の計画で、子どもが主体の計画はあまり無いのはではないか。

小児科が子どもだとしたら、計画に、実はどこにも子どもが主体のものは無い、入れるところが無いのが現状である。

子育て支援は、子どもじゃない、親である。もし、子どもが主体のものを入れるとしたら、大きな変更になるかもしれない。それは目玉になるようなことかもしれない。

なぜ、あまり出てこないのか、出てきても距離が遠かったりする。学校に通っていると、教育の多くは教育委員会の関係だったりする。ただ将来のことを考えた時に、この子が幸せになるような項目はあってもいいかもしれない。

次の計画にというのではなく、提案ということ。子どもを地域で育てることになった時に、この土地を知ってもらってもいいんじゃないかなって時に、共感するところがあるので、よろしければ。

評価はAでよいか。

(各委員)

A評価です承

(石田部会長)

続いて「重点項目5 活力ある地域経済の振興」について、
中項目「(1)にし阿波型もうかる農業の確立と推進」について、評価をお伺いする。

(篠原副部長)
数値どおりでB評価。

(石田部長)
評価としてはBで、どうか。

(金村委員)
世界農業遺産で「にし阿波の傾斜地農耕システム」のブランド認証件数が今回0件、今後どういった取組を予定されているのか。

(國安部長)
平成30年3月に、世界農業遺産に認定され、ただいま進行しているところである。
地域で採れた農産物に価値をつけるため、ブランド認証制度を平成30年度に創設、農家の方に募集し、10件認証する予定であった。今回0件になっており、認証するにあたりロゴマークを平成30年度に募集し、500件、想定以上の件数があったので、絞るのに時間を要し公表が遅れた。公表を平成31年度3月に「世界農業遺産1周年認定記念シンポジウム」を開催し、その際に発表することを協議会で決めたため、その後、募集をすることとなった。

平成31年4月から募集を開始し、6月に第1回の19件の認証をした。

第2回も募集しており、間もなく第2回のブランド認証商品を発表できる予定である。
今後も、世界農業遺産の価値を農産物に付けるため、引き続き募集をしていきたい。

(石田部長)
1点確認したい。
「世界農業遺産1周年認定記念シンポジウム」が、平成30年3月9日となっている。

(國安部長)
平成31年である。

(石田部長)
時間的に厳しかったとは思う。
評価については、Bでよいか。

(各委員)
B評価で了承

(石田部長)
中項目「(1-2)6次産業化・海外輸出による「新にし阿波農林業」への挑戦」についての評価をお伺いする。

(西村委員)
海外輸出で大変難しいと思う。
施策数も少ない、気持的にはBで止めておきたいと思う。

(石田部長)
評価としてはBで、どうか。

(由村委員)

同じくBでいいと思う。

施策番号111, 国内向けの出荷が増えたので, その分輸出が減ったとあるが, 何のための輸出かを考えると, 農家所得を増大させるため, 輸出金額は単なるKPIではないという考え方もできる。

今となっては遅いが, 評価指標の設定に矛盾があったのかなと思う。

(石田部会長)

新たな県の計画の方に, 意見反映させていただいたらいいと思う。

評価については, Bでよいか。

(各委員)

B評価で了承

(石田部会長)

続いて, 中項目「(2) 森林・林業を核とした「地方創生」」についての評価をお伺いする。

(由村委員)

数値達成状況からしてBがふさわしいと思う。

(石田部会長)

Bでよいか。

(各委員)

B評価で了承

(石田部会長)

続いて, 中項目「(3) 地域特性を活かした商工業の振興」についての評価をお伺いする。

(近藤委員)

Aで

(石田部会長)

Aでよいか。

(各委員)

A評価で了承

(石田部会長)

一通り評価・意見いただいたが, 全体を通じて意見・提案あるか。

(由村委員)

施策番号36「にし阿波環境塾」や施策番号60「防災出前講座」, ほかにも同じような評価項目があるが, 指標がふさわしいのかと思う。確かに小学生相手ではビフォーアフターの測定は難しいが, 中学生以上を相手にする塾や講座は, アンケートを実施して自ら振りかえらせて, 学習の理解度を定量的に数値化して振りかえるのが適正かなと思う。

(石田部会長)

評価を終えたので確認する。

重点項目1 魅力ある観光・交流の拡大

- 1 地域の魅力づくりの推進 A評価
- 2 外国人の誘客活動の推進 A評価
- 3 受入環境の整備 A評価

重点項目2 豊かな地域環境の創造

- 1 自然と共生する地域づくり A評価
- 2 環境に配慮した行動の推進 A評価
- 3 地域の環境資源の活用推進 A評価

重点項目3 安全・安心な地域社会の形成

- 1 広域防災体制の整備 A評価
- 2 災害に備えた基盤整備 B評価
- 3 地域を守る活動の推進 B評価

重点項目4 健やかに暮らせる地域づくり

- 1 子育てを支える地域づくり A評価
- 2 高齢者・障がい者を支える地域力の向上 A評価
- 3 健康な暮らしを支える保健・医療の充実 A評価

重点項目5 活力ある地域経済の振興

- 1-1 「にし阿波型もうかる農業」の確立と推進 B評価
- 1-2 6次産業化・海外輸出による「新にし阿波農林業」への挑戦 B評価
- 2 森林・林業を核とした「地方創生」 B評価
- 3 地域特性を活かした商工業の振興 A評価

以上でよいか。

(各委員)

了承

(石田部会長)

続いて、本日の会議の会議録の取りまとめ方法について、事務局から説明をお願いします。

(小笠調査幹)

本日の会議の会議録については、事務局で会議概要の案を作成し、委員の皆様にご内容を確認いただいた後、県のホームページで公表させていただきたいと考えている。

(石田部会長)

会議概要は、委員の皆様による確認後、公表することによいか。

(各委員)

了承

(石田部会長)

それでは、そのようにさせていただく。

以上をもって、本日の議事を終了する。

それでは、事務局にお返しする。

(大塚副局長)

本日は長時間にわたり、熱心に御議論いただき、感謝申し上げます。
いただいた意見は、今後の事業推進の参考とさせていただく。
以上をもって、「令和元年度徳島県西部地域政策総合会議計画推進評価部会」を閉会する。